

令和2年度評価結果の反映状況

評価結果	業務運営の改善への反映状況	備考 業務実績報告書 項目別実績番号
<p>1. 中期目標で示した、各病院における病床稼働率の目標値を達成するため、病床の適正管理に努められたい。</p>	<p>令和3年度は、令和2年度に続き、各病院ともに SARS-CoV-2(『新型コロナウイルス』という。)感染症の影響により病床稼働率については低い値となっている。</p> <p>総合病院では新型コロナウイルス感染症の影響により、病棟の一部を感染症専門病棟として運用した。その結果、一般病床稼働率は88.1%であったが、新型コロナウイルス感染症専門病床を除く一般病床稼働率は92.8%となり、目標値90%を上回った。</p> <p>また、こころの医療センターでは新型コロナウイルス感染症患者受入のために病床を確保している中で、自傷他害の可能性のある重症患者が増加していることもあって、病床稼働率が80.3%と前年度実績及び目標値85%以上を下回っている。</p> <p>なお、コロナ病床を除く稼働率は82.3%となっている。</p> <p>こども病院では、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度は目標値の75%を下回ったが、感染拡大が下火となり患者数が増加に転じていること、令和2年4月から正式稼働した入退院支援センターにて、効率的な病床稼働を目指していることから、令和3年度以降は目標値を上回る見込みである。</p> <p>今後、各病院とも院内感染対策を取りつつ、近隣医療機関と連携して紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図っていく。</p>	<p>39、49、60 各病院</p>

<p>2. こころの医療センターにおいては、デイケアの新規利用者増加や訪問看護の拡充に取り組まれない。</p>	<p>令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の感染防止に取り組んでいることもあり、在宅医療支援活動件数は伸びていない。</p> <p>病棟外作業療法は参加人数を絞りリモートによる実施とし、デイケア活動は昼食を跨がないショートケアのみ最大10人まででの実施、と活動を縮小していることに加え、静岡県に緊急事態宣言が発令されたことを受けて、8月中旬からショートケアの実施も停止した。</p> <p>そのため、例年と比較して実施件数が減少しているが、再開後を見据えてコロナ下でも実施可能な活動に取り組み、利用患者との繋がり維持に努めている。</p> <p>訪問看護では、令和3年度の実施件数は9月末において前年度を上回っている。特に、必要に応じてPSWや作業療法士など複数の職種が関与することで、入院初期の段階から退院後の訪問看護を見据えた多職種連携を行うよう努めている。</p> <p>今後も、訪問時の感染症対策に配慮しながら、積極的な支援を実施していく。</p>	<p>17 こころ</p>
<p>3. こども病院におけるラーニングセンターについては、マスタープラン（施設改修計画）とも整合を図りつつ、院内研修の集約化による研修環境改善に向けて運用・検討されたい。</p>	<p>旧手術室であるラーニングセンターについては、劣化改修や施設配置再編を中心とする本館リニューアル工事の影響で、令和2年度末まで仮設倉庫として使用し、引き続き、令和3年7月まで北館5階改修工事中の備品置場として使用していた。</p> <p>令和3年8月から、ラーニングセンターとして再開する予定であったが、患者家族の食事スペースを確保するため、同スペースに仮置きしていたコロナ対策物品の仮設倉庫として使用することとした。</p> <p>そこで、従来のラーニングセンターにこだわることなく、院内の会議室や空病室を活用して実習等の研修を再開した。</p> <p>令和3年度は、病棟再編が進行しているため、これまで検討していた旧手術室からより最適な場所をマスタープランとの整合性を図りつつ再検討している。</p> <p>なお、実習等の研修環境整備については、引き続き関係部署で検討を続けており、暫定対応として、シミュレーションは空病床で実施、講義は会議室の有効活用を図る方向に必要な研修を実施することとしている。</p>	<p>67 こども</p>